

ISSN 0385-7476
SSK

171
2001
January



1 小特集◎

保存されていた「日刊東洋点字新聞」 阿佐 博

ルポ◎

- 7 イギリスの雇用サービスの現状 三宅康博
13 21世紀を迎えてWBUの变革 山口和彦
21 ドイツの盲導犬と私 アンゲリーカ・ドゥックヴィッツ
talk to talk
25 新世紀に引き継がれた課題目白押し 笹川吉彦／高橋 実
34 シドニーパラリンピック報告資料 日本パラリンピック委員会事務局
38 インフォメーション・コーナー
52 「視覚障害」総目次No.161～No.170

視力のよわい方・お年寄りの方の読書に朗報!

モニター・カメラ分離式
簡易型書字兼用の

拡大読書器

●読みやすい●書きやすい●使いやすい かくだい君[®]



カラー読書器TOP-C02型

TOP-C02型の特長

- ピント合わせと拡大倍率は一本の操作棒で調節できますので、楽な姿勢で読み書きができます。
- 拡大画像の高倍率化“39.5倍”を実現しました。(21型モニターにて)。
- 広く・堅牢な資料台を採用しました。
- 資料用照明のまぶしさをなくしました。
- 21型(20kg)迄のモニター搭載が可能です。

価格

TOP-C02型 (モニター別売)

¥198,000

(お手持ちのビデオ入力端子付きカラーテレビをモニターとして利用できます)



白黒読書器TOP-01型

TOP-01型の特長

- ピント合わせと拡大倍率は一本の操作棒で調節できますので、楽な姿勢で読み書きができます。
- 拡大画像の高倍率化“32倍”を実現しました。(17型モニターにて)。
- 広く・堅牢な資料台を採用しました。
- 資料用照明のまぶしさをなくしました。
- 21型(20kg)迄のモニター搭載が可能です。

価格

TOP-01型 (14型テレビ付)

¥198,000

TOP-01型 (17型専用モニター付)

¥250,000

- 視覚障害者用拡大読書器には消費税がかかりません。
- 「日常生活用具」認定品として、補助金支給の制度があります。

製造・販売 (東日本地区)

株式会社



電話 (03) 3263-3921 (代)

〒102-0083 東京都千代田区麹町1-10-1 福祉機器担当

代理店 (西日本地区)

三興機電株式会社

電話 (06) 6305-5031 (代)

〒532-0012 大阪市淀川区木川東3-4-18 中村第2ビル

小特集 保存されていた「日刊東洋点字新聞」

阿佐 博

第2次世界大戦以前に、我が国に日刊点字新聞の存在したことを知る人はもう少なくなったであろう。私は数年間にわたってその読者であったが、現物は今日おそらくどこにも残っていないのではないかと考えていた。ところがその一部が出てきたのだ。名著『点字発達史』の著者であり、元東京盲学校教頭だった大河原欽吾氏が倉庫に残しておられたのである。それをご子息が発見して日本点字図書館に寄贈されたと聞いて、早速見せてもらうことにした。

お願いしておいた昨年10月初めの1日、日点を訪ねると、レファレンス担当の梅田さんが閲覧室の一つを確保し、机の上にその日刊紙をいくつかの山に分けてうずたかく積み重ね、パーキンスプレーヤーとテープレコーダーを揃えて用意してくれてあった。期待に胸を躍らせながら最初の山に手を出すと、一番上にあったのが昭和12年2月24日号であった。60数年、倉庫に眠っていたというだけあって、さすがに埃にまみれ、点もかなり磨滅してはいたが、それは活字式点字輪転機で印刷されたやや大きめの独特の点字で、私にとっては指に懐かしいものであった。私は第1ページ冒頭の日付を読みながら、「ああそうだったなあ」と思い出した。丁寧に暦が記されているのだ。そのままここに転載しておくことにしよう。

昭和12年2月24日 水曜日 旧1月14日 壬午（みずのえ
うま） 七赤 友引 日刊東洋点字新聞第4084号 東京淀橋区淀
橋719番地 1ヶ月85銭 編集兼発行人 木村 福

そのころは一般紙でもこのような日付を付けていたのだろうか。
定価は1ヶ月85銭とある。この定価についても今日では理解できる
人が少なくなったのではなかろうか。昭和12年といえば筆者が四国
から出て来て、東京盲学校中等部に入学した年なのでよく記憶して
いるのだが、汁粉が5銭、銭湯の入浴料金が7銭、かけそばが9銭
だった。そんな時代の85銭だったので、興味のあるかたは今日の貨
幣価値に換算してみていただきたいと思う。

記事の初めには「盲界コンパス」というタイトルがあり、いわゆ
る盲界ニュースが取り上げられている。本号では

「徒波^{あだなみ}も静まり果ててゆく水の音無し川に年たちにけり」
という歌で、明治39年の勅題「川」の時に予選に入った名古屋の盲
歌人河出翁の7周年追善供養が行なわれたことが記されている。

これに一般記事が続き、義務教育延長問題、衆議院予算総会の模
様、満州開発5カ年計画、警視庁の自殺統計などが載っている。そ
して最後に、いにしえから幽玄な鳴き音で知られる霊鳥“ブッポウ
ソウ”は実は“コノハズク”だったと、ブッポウソウの話題が出て
いる。このように記すと、8ページ立ての本紙の素顔をだいたい想
像してもらうことができるだろう。

さて積み重ねられた各山を調べてみると、年度も日付もかなりま
ちまちまになっていることがわかった。そこで作業の手順として、そ
れらを年度別に分類することから始めた。その結果、昭和11年8月
2日号から、同15年3月7日号までであることがわかった。しかし、
すべて揃っているのではなく、昭和11年のものはわずか11部しか
なく、最も多く残っている昭和12年のものでも100部余りにすぎず、
あとは各年度4、50部程度のものであった。各年度にわたって、す
べて揃っていればずいぶん貴重な資料になるのだがなあと思いなが
ら、あちらこちらから抜き取って読んでいるうちに一つのことに気
づいた。どの号にも盲教育関係の記事や、盲界の重要なトピックス

が出ているのだ。それで一つのことに思い当たったのである。「おそらく大河原先生がこの新聞をとっておられたのは昭和11年8月から、昭和15年3月までだったのだろう。そして教育問題や盲界のトピックスで、後々参考にしたいと思う記事の出ている号だけを手元に残されたのではないだろうか」ということである。

特に最も古い11年8月2日号には、「文部省諮問答申書」というのが載っていて、盲学校中等部における教育内容が詳しく記されている。今日でいう「指導要領」に当たるものだろう。教科科目に関しては、①文部省において、速やかに中等部の各科教授要目を制定すること、②文部省において各学科の教科書を編纂または選定すること、などとある。また、盲教育の指導精神について、①ますます国体を明澄にし、興国精神の発揚に努めると共に、報恩感謝の心情を陶冶すること、②盲人教育に対する偏見を是正し、真に盲人の本質と盲教育の目的に省み、国民教育の徹底を期すると共に、特に人格の陶冶に力を致し人格教育の徹底に努めること、などと示している。回りくどい表現ではあるが、盲教育も国民教育の一環であるとの位置づけを明確にしたうえで、盲教育の本質をよく理解し、人格の陶冶に努めよという意味であろう。

項目はまだ続くのだが、その最後のほうに「盲人の実状に鑑み、特に保健教育に力を注ぎ、各種の施設設備と相まって教育擁護上いっそう努力すること」と盲教育者の心構えについての記述もあり、興味を引かれた。昭和11年といえばまだ日中戦争勃発の前年であり、平和な時代だったのだ。だからこそ、盲教育に関してもこのように深く検討され、計画が進められていったのであろう。しかしその翌年から我が国は日中戦争に突入し、第2次世界大戦へと向かうのである。戦争が苛烈になれば障害者は次第に顧みられなくなり、昭和10年代末の盲教育の荒廃時代を迎えるのである。

昭和15年3月までしか残されていない本紙から戦争末期の様子を

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みにになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

編集後記

技術の進歩は限りない可能性を秘めていて、留まるところを知らぬ勢いで発展しています。以前では想像できなかった事柄を可能とし、それに伴い私たちの生活のスタイルや質も変化してきました。ただ、最近のニュースや人々の公衆の面前での行動をみていると、技術の進歩が私たちにもたらしたものは、それらの変化だけでなく、人々の内面、心をも変えたように思えてなりません。電車内では、携帯電話で会話やメールの送受信をする人、ヘッドホンステレオのボリュームを大きくして音楽を楽しむ人など様々な光景が見られます。これらは車内での有効な時間の活用法と言えますが、個人主義の歪んだ姿とも解釈できます。すなわち、これらの行為には相手の立場を思う想像力が欠如しているのです。こうした姿を目にする機会が増すごとに、今後の技術の進歩と社会の変貌に、つい不安を感じてしまいます。次号では、ご好評の「視覚障害情報処理技術」を掲載します。

(立花明彦)

視 覚 障 害	2001年 1 月 No.171
年間購読料	4,200円 (送料とも)
発行日	2001年 1 月 1 日
編集人	立花 明彦
(連絡先)	日 本 盲 人 福 祉 研 究 会 (文 月 会)
	〒167-0043 東京都杉並区上荻 2 丁目37番10号
	Keiビル 3 階
	電話 (03)5310-5051 (代)
	FAX (03)5310-5053
	http://www.normanet.ne.jp/~fumizuki/
	振替口座 00160-4-16103
発行人	障害者団体定期刊行物協会
	〒157-0073 東京都世田谷区砧 6 -26-21
印刷所	株式会社 大活字
	〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-1-9
	電話(03)5282-4361